

21年度学校教育自己診断結果について（報告）

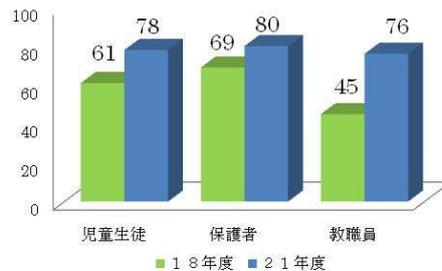
今回の分析では前回（18年度）結果との対比を中心に行いました。大きく改善された点、あまり改善の状況が見られない点など本校の現状評価として捉え、今後の教育活動や学校運営にいかしていきたいと思えます。

前回との対比に基づく分析

- 1 提出率
- 2 肯定評価から見た対象者別の比較（児童・生徒 保護者 教職員）
- ※よくあてはまる・あてはまるに該当する意見を集約した数値を肯定評価と捉えました
- 3 記述回答（要約）
- 4 学校協議会からの意見
- 5 まとめ（次年度に向けて）

1 【提出率】

	18年	21年
児童・生徒	61%	78%
保護者	69%	80%
教職員	45%	76%

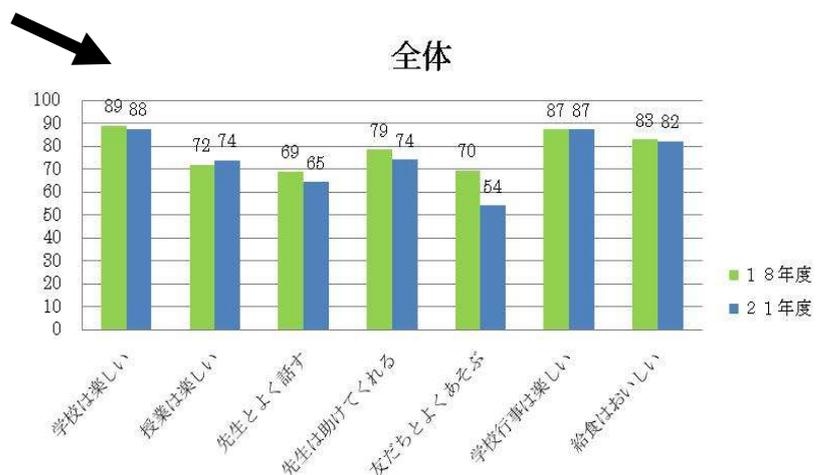


児童生徒、保護者、教職員ともに8割近くあり前回は上回る提出率でした。特に、教職員の提出率は大きく改善しました。質問項目の精選や様式の変更に一定の成果があったと思われます。

2 【対象別比較 児童・生徒】

「学校生活は楽しい」「行事は楽しい」「給食」については全般的に前回と同様、高い評価でした。但し、「授業は楽しい」に対する評価がまだ全般的に8割に達しておらず、より児童生徒の実態に即した授業の確立に向けて検討して行きたいと思えます。

「先生とよく話す」「友だちとよく遊ぶ」については学部間ではばらつきがありました。特に、「友だちとよく遊ぶ」については全学部とも低い結果でしたが、障がいの特性に起因する要素も含まれるのではないかと推察します。さらに「わからない」と答えた回答が3割~4割弱もあり、児童生徒に代わって保護者が回答している状況を踏まえると今後、質問内容の精選や質問方法についても引き続き検討して行きたいと思えます。

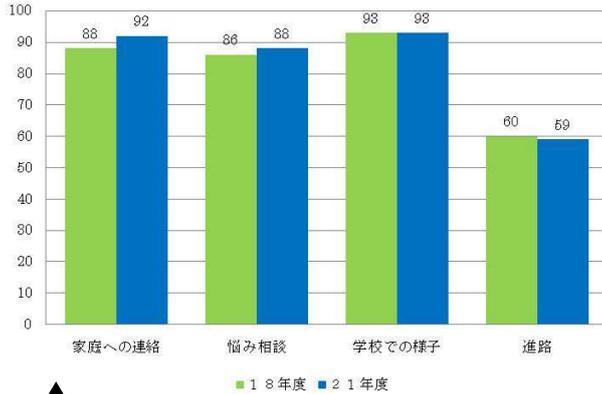


【保護者】

教育活動における「楽しく通っている」「子どもへの理解」「行事」「学習の記録」等は前回、同様に高い評価でした。特に、前回の診断において課題として取り上げられた「個別の支援計画についてわかりやすく説明している」については大きく改善しました。



家庭連携



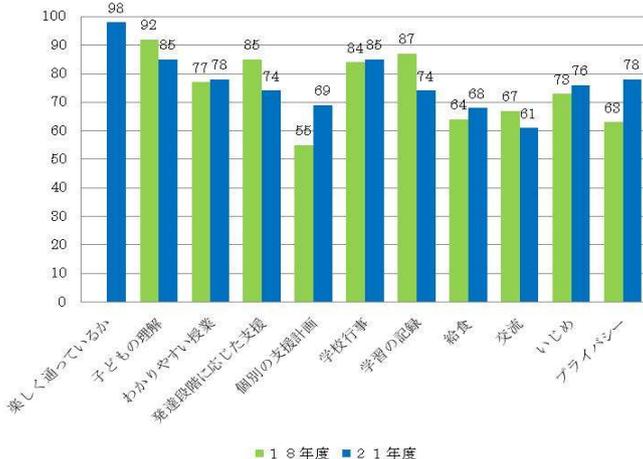
家庭連携の「進路に関する必要な情報提供や適切な支援」はあまり改善されていませんが、引き続き進路情報に関する提供方法の改善や、全校研修を通じた進路に関する情報の共有・共通理解を図り、家庭との連携をより充実して行きたいと思えます。



尚、「交流」「いじめ」「プライバシー」「進路」「PTA」などの回答において2割近く「わからない」という意見がありました。施設における「施設・設備」は依然低い評価でしたが「校内の清掃」については一定の改善が窺えると思えます。

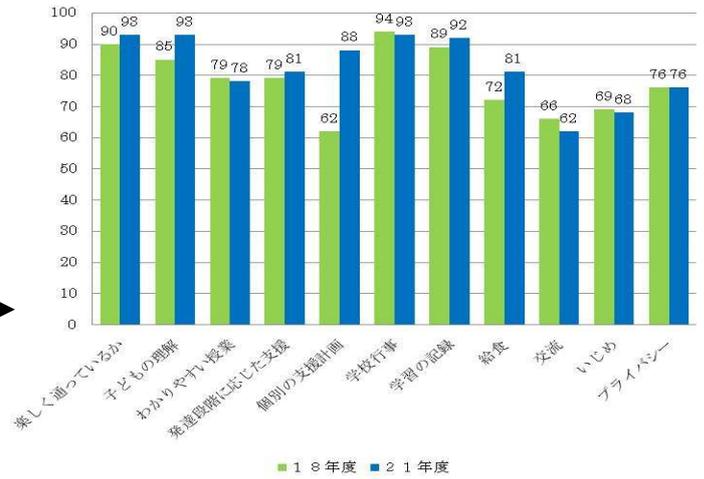
【教職員】

教育活動

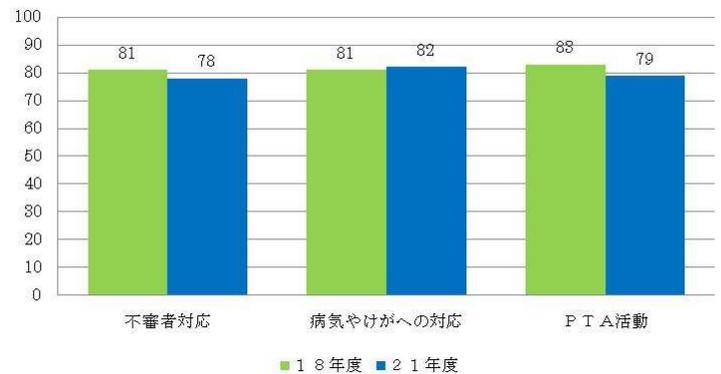


教育活動においては質問項目により評価のばらつきが見られますが、保護者と同様に「個別の教育支援計画」に対する評価や「プライバシー」に関する評価は一定改善されたと思えます。

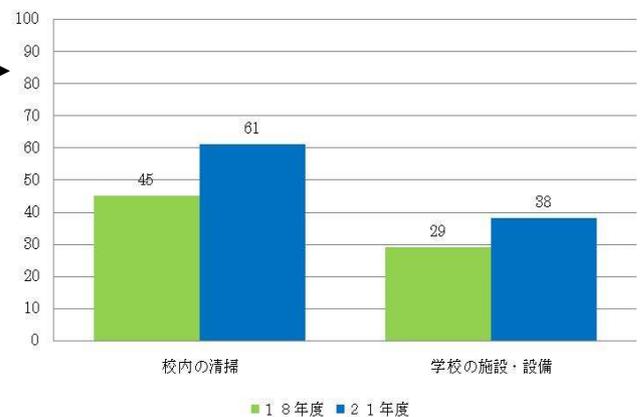
教育活動



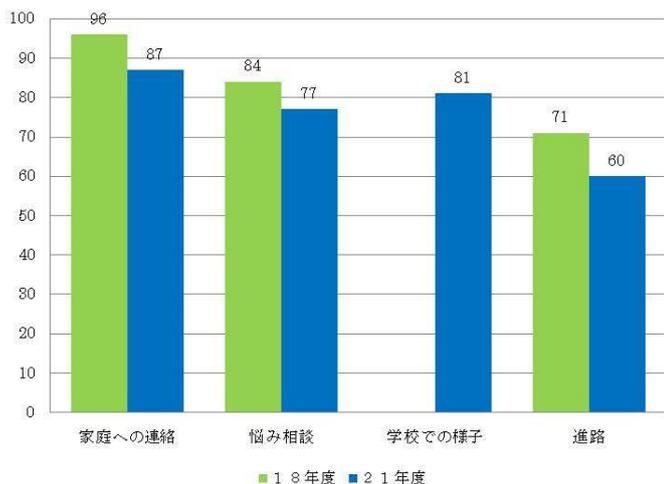
その他



施設



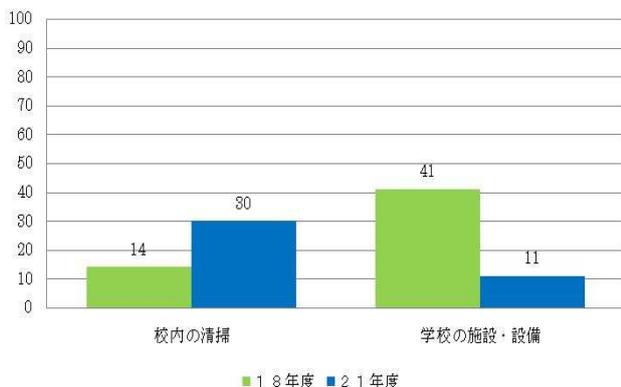
家庭連携



家庭連携において各項目の評価は下がりました。今後「進路」に関する情報提供をはじめ家庭との連携をより充実して行きたいと思えます。

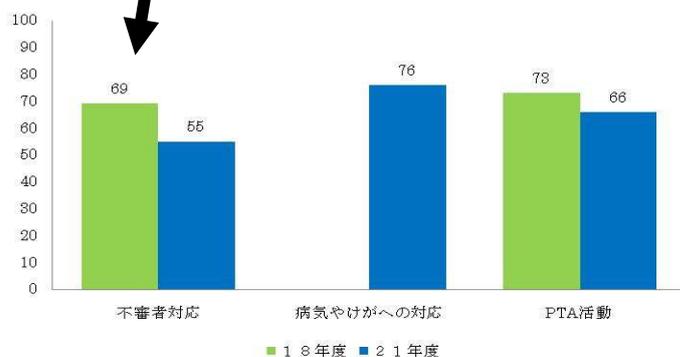
また施設・設備については保護者同様に低い評価でした。

施設

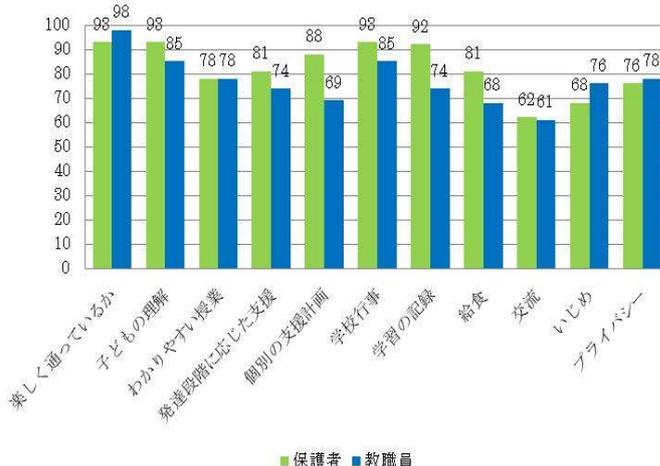


不審者対応に関する評価も5割程度でしたが、今年度から新たに取り組んだ警察を招いての不審者対応訓練などを通じ、教職員全体の危機管理意識が高まったものと推察します。

その他



教育活動

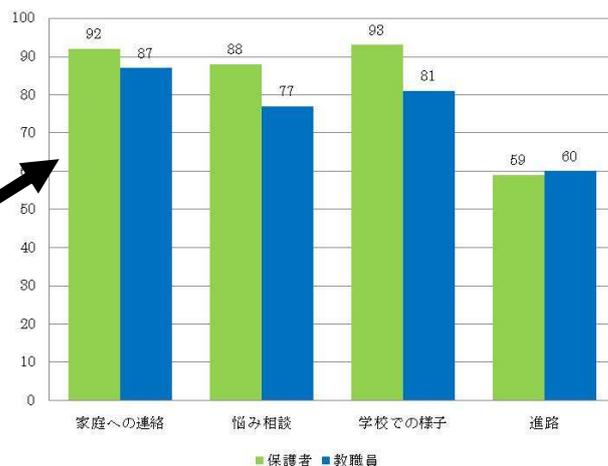


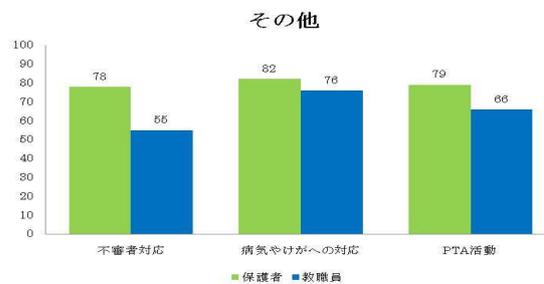
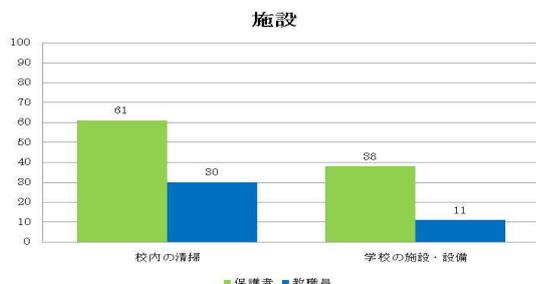
【今回の診断の保護者と教職員の対比】

教育活動、家庭連携、施設、その他の項目において、保護者は教職員の評価を上回っていますが、前回の課題でもあった「交流」「施設」に合わせ、「不審者対応」についても新たな検討課題として受け止めて行きたいと思えます。

また、「個別の教育支援計画」の充実や「学習の記録」については、様式の見直しを含め検討して行きたいと思えます。

家庭連携





3 【記述回答の要約】 児童生徒11名・保護者30名からの意見がありました。

児童生徒たちは●運動会は楽しい●一輪車に乗りたい●もっと先生と遊びたい●英語がしたい●給食をもう少し増やしてほしい●授業レベルを上げてほしい●自転車通学したいなど率直な思いを出してくれました。

保護者からは重複した内容もありましたので要約しますと■行事の見直し■施設・設備における安全性の向上■障がいに対する理解や対応を含めた教員の専門性の向上■学校運営（情報発信の推進含め）に関するもの■家庭との連携の充実（授業見学の機会増含め）など学校に対する積極的な意見が出されました。今後もこれら意見や要望に応えられるよう検討して行きたいと思えます。

4 【学校協議会より】

2月25日（木）の学校協議会において様々な視点からの指摘や意見がありました。具体的には①診断分析方法に関して（比率のみからではない分析検討の必要性など）

- ②進路（12年間を見据えた系統的指導の充実や組織的支援体制の整備）
- ③発達段階に応じた指導支援の充実（個別の教育支援計画との整合性）
- ④外部機関連携の充実
- ⑤家庭連携の充実（保護者の様々な想いや要望に対する支援の充実）など

以上の貴重な意見提起を踏まえ、今後の課題解決に生かしていきたいと思えます。

5 【21年度学校教育自己診断のまとめ】

- ① 提出率から児童生徒、保護者の学校教育に対する参画意識の高まりが窺える。
- ② 保護者の学校に対する期待感やニーズの増加・多様性が窺える。
- ③ 保護者教職員の対比から保護者の学校に対する信頼感や期待感が窺える。
- ④ 教職員の3年間における取組の成果を肯定的にとらえる意見は一定評価したい。
- ⑤ 教職員間には、現状に対する問題意識や課題意識の高さも窺える。
- ⑥ 評価の低い項目については次年度以降、引き続き課題の解決や改善に取り組む。
- ⑦ 施設・設備をはじめ様々な教育環境の整備という点では、予算化を含めた解決・改善を引き続き管理職を通じ府教委等へ強く要望していく。
- ⑧ よりわかりやすい・実態に即した「学校教育自己診断」の検討と改善を図る。
- ⑨ 自己診断の果たした役割

児童生徒、保護者のニーズを伝える役割を果たし、教職員自身が児童生徒・保護者のニーズを問いたい意識も高まった。又、児童生徒・保護者の意見等を受け入れる機会が、普段は連絡帳、懇談会、PTA役員会・実行委員会ぐらいであり、児童生徒・保護者・教職員共に学校について客観的に見直す機会になった。